

# 平成 29 年度 第 1 回 学校運営協議会 議事録

日時:平成 29 年 4 月 27 日(木)19:00~20:30

場所:秋津小学校 2 階会議室

司会:教頭・小関 記録:渡辺・斎藤

## 【出席者】

1	千葉大学教授	伊坂 淳一	8	学校支援ボランティア環境代表	桑名 英一
2	秋津小学校PTA会長	小西 正大	9	社会福祉協議会秋津支部長	森崎 俊治
3	秋津小学校PTA副会長	加藤 千奈	10	習志野市教育委員会指導課長	上原 宏
4	秋津まちづくり会議副議長	伊藤 知通	11	秋津小学校 校長	井上 聡子
5	学校体育施設利用団体代表	山下 晃	12	秋津小学校 教頭	齋藤 信幸
6	民生主任児童委員	玉井 恵枝	13	秋津小学校 教務主任	渡辺 雅和
7	学校支援ボランティア情報代表	小関 秀夫	14	秋津小学校 生徒指導主任	開 陽介

(欠席者)青少年センター所長 浦野 哲

## I 習志野市教育委員会から 進行: 加藤 努 指導主事

### 1 辞令交付

### 2 学校教育部より(指導課長 上原 宏 )

松戸で痛ましい事件が起ってしまった。また、子どもの貧困が社会問題になるなど、学校だけで育てることが難しい時代になってきている。子どもたちにとって安心安全な場所に学校をしていかなければならない。そのためにも皆様のご協力をお願いしたい。

## II 学校運営協議会委員 自己紹介

## III 第 1 回学校運営協議会会議

### 1 役員選出

委員長 小関秀夫 副委員長 小西正大

挨拶:コミュニティースクールの在り方が変わってきた。どういう学校を目指すのか、学社融合の力になっていきたいと考える。

### 2 報告事項

(1)平成 29 年度第 1 回パートナー会議議事録

(2)平成 28 年度第 3 回学校運営協議会議事録

教頭～資料に基づいて報告

### 3 協議事項

(1)平成 29 年度学校経営の基本方針について

・学校経営方針 ・学校経営の全体構想 ・今年度の指導重点と評価。

(伊坂)学校運営協議会の将来像をどのようにしていけばよいか、高齢化だけでなく、性格が変わってきている。新たに全県で、コミュニティースクールにしていくところもある。これまでは、ブランドとなっていたが、増えたことでブランド力も落ちてきた。年間でのルーティン化するにはどうしたらよいか、指導課とともに考えていき、学校としての将来像を持っていく必要がある。

(森崎)少子高齢化の中で、年長者から伝えるものを大切にしたい。今の子は、ゲームがある。(作ってもらった遊び)年長者は身近にあるものを遊びにしていたことを

伝えていきたい。

(山下) マラソンは目標を決めて、日々の取り組みを大切にしてほしい。体育の研究に取り組んでいるので、継続することが大切だと思う。

(小関) 基礎基本を大切にすることが不易な学習であるが、学校が一步踏み込んできた感がある。「家庭学習はどうでしょう」というのが、踏み込んできたことを感じる。

(小西) 自ら学び考える。家庭で、塾に行かなくても勉強できる世の中になってきた。昔の観点と今では違ってきた。

(加藤) 目安になった。身につけさせたい力が分かった。ありがたかった。

(上原) 家庭と学校は両輪である。学年ごとの「とんぼスタディー」は秋津小学校の特徴です。学力は、全国との差が縮まった。学習に対して苦手・得意の2極化になってきた。

(小関) 下位の子たちがどうやって学力をつけていくのか。難しかったが、良い指標ができた。異年齢集団が28グループで縦割りに取り組んだことは、面白く思っている。

(玉井) パートナー会議でいろいろ言ったが、いろいろな取り組みが出てきたが、子どもが疲れていないか。疲れていやにならないだろうか。

(伊藤) コミュニティスクールにおいて、地域・学校の関わり方が難しくなってきたように思う。学習や外国語活動などどのようにかかわれるのか、答えがないように思える。

(小関) 「チーム学校」と「コミュニティスクール」はどう違うのか。制度面の改革をしているところもあり、どのようにしていくのが良いか。

(伊坂) どこも課題は、普通学級の中に占める特別な支援が必要な児童の数が増えているところにある。そこをどうするのか、個別の支援計画が個々に書かれている。支援委員たちも増えている。それよりも地域が支援していく方向もある。しかし、地域が特別な支援を必要とする子たちにどう接していったらいいのか難しいところがある。

(小関) 校内組織について意見がありました。

※学校経営方針について承認をいただきました。

## (2) 教育課程の編成について

(伊坂) 細かく丁寧に計画されている。よくここまで整えたという思いがある。パワーアップタイムは時数を積算しなくてもよいのか。

(小関) 授業に入れていないのか。

(校長) 積算している学校のほうが少ないようです。

(伊坂) 積算していなくても、せざるを得なくなる場合もある。

(森崎) 子どもたちにとって、友達関係・保護者との関係・兄弟関係と3つのパイプがあるわけだが、縦割り活動が加わることで人間関係のパイプが増えることは良いことだ。

(小関) 異年齢集団は、異年齢学習につながる。

(伊藤) 体育アンケートに数値目標があったらよいと思う。

## (3) 29年度の学校評価について

(伊藤) 対策の取りやすい設問にするなど改良したほうが良い。マークシートだと評価点と自由記述の内容がリンクしていない場合、どのように改善して行けばよいか、理由付けができない。わかりやすいアンケートに変えるべきだと思う。

(渡辺) 指導の評価の内容をリンク付けすることで、対応したい。

(伊坂) 経年変化はあまり気にしないほうが良い。1つの学年で追うなら必要だが、子どもが変わるので数値より実感を大切にしていきたい。「これは良いところ」「これは課題である」と、言葉で考えていく。数値はその次にしていきたい。

(小関)学校評価をどういう観点でやるのか、説明責任が前提である。自由記述でやる、もしくはどう取り組んでも負担のかからないように、再検討をお願いします。

#### 4 その他

(1)次回開催予定日 第2回 11月30日 第3回 3月1日

平成29年度 第2回 学校運営協議会 議事録

日時:平成29年11月30日(木)19:00~20:30

場所:秋津小学校 2階 会議室

司会:教頭・小関 記録:渡辺

【出席者】

1	千葉大学教授	伊坂 淳一	8	学校支援ボランティア環境代表	桑名 英一
2	秋津小学校PTA会長	小西 正大	9	地域住民	森崎 俊治
3	秋津小学校PTA副会長	加藤 千奈	10	習志野市教育委員会指導課長	上原 宏
4	秋津まちづくり会議副議長	伊藤 知通	11	秋津小学校 校長	井上 聡子
5	学校体育施設利用団体代表	山下 晃	12	秋津小学校 教頭	齋藤 信幸
6	民生主任児童委員	玉井 恵枝	13	秋津小学校 教務主任	渡辺 雅和
7	学校支援ボランティア情報代表	小関 秀夫			

(欠席者)青少年センター所長 浦野 哲、秋津小学校生徒指導主任 関 陽介

1 会長挨拶 教育の質の向上のためにご意見をいただきたい。

2 校長挨拶 少ない教職員で、どう効果を上げていくかを日々考えながら教育活動を行っています。

3 報告

(1)平成29年度 第1回学校運営協議会議事録 教頭～資料に基づいて報告

(2)平成29年度 第1回～第7回パートナー会議の内容 教頭～資料に基づいて報告

(上原)報告を聞いて、パートナー会議の位置づけが大事である。学校運営協議会を支えるものとなっている。教育課程の多岐にわたって、協議されている。パートナー会議といじめ防止対策会議も兼ねていることがわかった。

(伊坂)上原課長と同じ意見である。学校経営の基本方針、育てたい児童像を議論することもしていくと良い。

(3)学校評価アンケートの結果から 教頭～資料に基づいて報告

①について

(伊坂)自分自身の改善か、学校あるいは先生方の改善かどちらか。

(玉井)記名式にすると日々の関係性が見えてくるのではないか。

(井上)楽しくないと回答した子どもに「なぜ楽しくないと感じているのか」聞き取ることが大事。

(玉井)改善策を講じているということになるのか。

(伊坂)「そう思わない」を「改善が必要」と変えている。どちらの立場でとらえているのか。何%の子どもがどうこうではなくて、個別に何をしているのかが大事。指導支援を重ねる必要がある。「〇〇をしました」と「〇〇をする予定」というアクションが必要。担任は何をした、学校は何をした、学校をこえたところで支援をする

必要があるのではないか。

(小関)子どもを特定して、どういう形で指導していくのか。

(森崎)家庭と学校のどちらが楽しくないのか、楽しいのか。家庭が楽しくないから学校も楽しくないのか、どちらかが頼りになるのでは。家庭と学校共に楽しくないのであれば。

(小関)学校が楽しいのか楽しくないのか。

(森崎)原因は何なのか。結果だけでなく、原因を細分化していく必要がある。

(山下)学校での問題だと思う。家庭についてはあとの設問でも読みとれる。

(小関)あくまでも学校生活に関するものである。

(伊坂)家庭が楽しくなくても学校で楽しくしてあげなければならない。「こえたもの」というのは病気とか教員の手で負えないもの。一人一人に対して何をしたのか。「どんな対策をしている」という書き方をするとよい。

(小関)課題の対応方法はあとでまとめて。

②について 意見なし

③について

(加藤)子どもはプリントの枚数を自慢している。国語もやってもらえるとありがたい。

(小西)プリントで見えるものと頭の中に入っているもの。九九を今親子でやっている。

(伊坂)学習意欲、基礎基本を大切にしている、そういう解釈になっているのか。③は学年別にした方がよい。

(小関)算数を取り組むのは合っているのではないか。

④について 意見なし

⑤について 意見なし

⑥について 意見なし

⑦について 意見なし

⑧について 意見なし

⑨について

(小西)3歳と4年生のころが一生を左右すると言われている。

⑩(児童の回答)について 意見なし

⑩(保護者の回答)について 意見なし

⑪について

(森崎)廊下で親が話している。学校との連携の中で、知り合いと話すだけで終わる人もいる。こういう人が低い評価をしているのではないか。

(小西)以前、注意をしたことがある。オープンスペースで走り回っている小さな子もいる。

(伊藤)学年が上がってくると、廊下から見て話をしている。学校の姿勢を問うている。85%なので良いのでは。

⑫について 意見なし

⑬について

(上原)昨年と比べてみては。⑧については、昨年は55%に対して、今年は74%となっている。掃除の仕方や学校のきまりを守るという重点が反映された結果といえる。逆に重点にしたけれど落ちているものについて原因と対策が必要。

(伊坂)教職員アンケート3, 5について、誰に対してか。12, 13, 14については誰に対してか。アンケート設問の内容について、1, 2「子どもは～」は誰に対してか。楽しいか楽しくないか、競争させて活性化させたりムキにさせたり教育は良くない。どういう形で子どもたちが楽しくしようとしているのか、競わせることで楽しくしていないか検証してほしい。「話す・聞く」と「話し合う」はイコールではない。道徳の授業で、拡散させて友だちとの違いを知るのか、学級活動で集約させるのか、この辺を意識した話し合い活動をしているのか。表面に出てこない部分で指導を深めてほしい。

(4)2学期いじめアンケート結果 教頭～資料に基づいて報告

(小関)低学年で多いのは何か。

(齋藤)語彙力、コミュニケーション力が不足している。

(上原)全市的に見ても1, 2年の認知件数が多い。1年から6年に上がるに連れて減っているが「解消」と見るのか、「見えにくくなっている」のか調べる必要がある。

(森崎)「解消」と「解決」の違いは。

(齋藤)同様とさせていただいて良い。

(上原)各校の状況においては、解消状況は70%、未解決・継続は30%。全市＝学校ではないが。子どもたちは「大丈夫」といっても先生は観察している、見守っていることが大事。こういうデータを共有していることが大事。

(伊坂)どのレベルをいじめとして報告せよと言っているのか。

(上原)いじめの定義に当てはまるものはいじめ。認知件数とは認知できた件数。どれだけ認知できたか。必ず両方の面談をする。そのことを双方の親に連絡しているのか、これをお願いしている。フィードバックについては各校に委ねてある。

(伊坂)数字の大小の議論は困る。疑いでも「認知」「報告」

(井上)「いじめ」と回答していれば「いじめ」と認知している。

(伊坂)こういうことが地域にも周知されていることが大事。

#### 4 協議事項

(1)「学校評価の実施と教育活動の改善」について

- (伊藤)資料5の2ページ、わかりにくい表現がある。箇条書きにした方がわかりやすい。教師が何をしたのかがわかりにくい。先生方が何をやったのかを書いた方がわかりやすい。もっと自慢して書いた方がよい。
- (玉井)これだけの情報量をどれだけ読みとれるのか。「アンケート」と「評価」の違いを明らかにする。回答者は、提示された数値をどれだけ参考にするのか。
- (小西)「来たからやる」という親が多い。
- (加藤)情報量が多いと後回しになってしまう。
- (玉井)伝わりやすい情報の提供をしてほしい。
- (井上)この形で続けてきているので今年度も行っている。わかりやすく伝えることが不足している。
- (伊坂)評価とは学校が主体としたものである。評価アンケートをもとに学校評価資料を作ってもう1回聞くのか。改善策を出す必要がある。「学校評価資料」を出す必要があるのか。
- (小関)第3回学校運営協議会で具体的な改善策・方策を出せばよいのではないか。
- (伊坂)アンケートをもとに自己評価する。自己評価することが「学校評価」である。出てきたものに対して、課題を見つけだし、新たに目標を設定する。保護者に対して、重複と思われるものをするのはどうかと思うので、もう一度精査してほしい。
- (上原)学校評価の仕方については校長の判断で良いと思う。

## 5 その他

○第3回学校運営協議会の開催日について 3月1日(木) 教頭より連絡

平成29年度 第3回 学校運営協議会 議事録

日時:平成30年3月1日(木)19:00~20:30

場所:秋津小学校 2階 会議室

司会:教頭・小関 記録:渡辺

【出席者】

1	千葉大学教授	伊坂 淳一	8	学校支援ボランティア環境代表	桑名 英一
2	秋津小学校PTA会長	小西 正大	9	地域住民	森崎 俊治
3	秋津小学校PTA副会長	加藤 千奈	10	習志野市教育委員会指導課長	上原 宏
4	秋津まちづくり会議副議長	伊藤 知通	11	秋津小学校 校長	井上 聡子
5	学校体育施設利用団体代表	山下 晃	12	秋津小学校 教頭	齋藤 信幸
6	民生主任児童委員	玉井 恵枝	13	秋津小学校 教務主任	渡辺 雅和
7	学校支援ボランティア情報代表	小関 秀夫	14	秋津小学校 生徒指導主任	開 陽介

(欠席者)青少年センター所長 浦野 哲

○上原課長より、学校運営協議会規則の改正について説明

(伊坂)コミュニティスクールのハードルを下げることで、学校数を増やしていくという理解、手を挙げやすくするための改正という理解でよいのか。

(課長)その通りです。

(伊坂)今までは普通の学校では入り込めない感じ(位置づけ)であったが、今後はコミュニティスクールとして周りを見ながら進めていってほしい。

(課長)コミュニティスクールがもっと近くなるための改正である。

(伊坂)規則に昭和24年とか昭和31年とあるが、そんなに古いものではなく、常に改正を重ねている。しかし、このように示すのが通常であるので、説明が必要である。

(小関)2つ以上の学校で1つの協議会でもよくなった。閉校の学校が出てくる中で、小規模校では成り立っていないときにこの「2つ以上の学校でもよい」という内容が大切になってくる。

1 会長挨拶 よりよい学校運営協議会のあり方について考えてもらいたい。

2 校長挨拶 できるだけ具体的に動くことを昨年度の成果と課題について検討し、4月から実施してきました。

そしてさらに、成果と課題が見えてきた。どうぞよろしくお願いいたします。

3 報告

(1)平成29年度第2回学校運営協議会津事録 教頭～資料に基づいて報告

特になし

(2)平成29年産業1回～手9回パートナー会議の内容 教頭～資料に基づいて報告

特になし



- (3) 学校評価集計結果から 教務【項目 1】～【項目 3】教頭【項目 4】～【項目 5】資料に基づいて報告  
(山下)「次年度へ向けて」が明確に書かれている。わかりやすい。
- (伊藤)保護者からのコメントで「先生方一人一人に対応の差があるが、学校としてどのように考えているのか。  
(校長)より共通理解、共通行動を意辞した取り組み(見える化)を行っている。  
(小関)具体的に示していただき、ありがたい。
- (小西)先生方の休が心配。負担が大きい。割り振りをうまくできれば余裕が出てくるのか。PTA からも発信していきたい。公開研究会の内容は充実してきている。だけど、保護者にはわかりにくい部分が多い。
- (加藤)「とんぼセミナー」の曜日を毎回替えていただけるとありがたい。「とんぼスタディ」の取り組み方が学級によって差がある。足並みをそろえてほしい。
- (渡辺)「家庭学習ガイド」は配布したが、具体的な働きかけが足りなかった。
- (校長)待っているだけではダメ。学校全体で働きかけをしていかなければならない。
- (渡辺)木曜日だけが 5 校時のため、下校時刻や児童の体力を考慮すると、可能な曜日は木曜日しかない。
- (森崎)「わからない 1 評価できない」と回答していることが問題である。ゼロにしていかなければいけない。
- (伊藤)見ていないと評価できない。だから「わからない」なのではないか。
- (小西)働いているお父さんたちは学校生活が見えてない。子供と接している中で気づくこともある。
- (玉井)正直に「わからない」のか無関心で「わからない」のか、その「わからない」をどう読むのか。
- (小関)自由記述の中からどういつもりで「わからない」のかを読み取るしかない。
- (伊坂)保護者アンケートを見て呆然とする、十人十色。「～してほしい」が多い。考えるほどつらい。「できることはできる」「できないことはできない」といいたいところだが、なかなか難しい。この学校運営協議会がサポートしていく。習志野の教員は頑張っていることをもっと保護者に発信するべきだ。
- (小関)教育委員会としては？
- (課長)指導力の向上が大事。ベテランの技を若手にいかに伝えるか。この辺りは指導課の役割でもある。研修内容の見直しを今年度も行った。不易と流行を見据える。

#### 4 協雑事項

- (1)「学校評価結果と教育活動の改善」について
- 3 報告(3)にて協議
- (2)「いじめアンケート結果」「学校生活アンケート」「健康で安全・安心な学校づくりを目指して」について  
生徒指導主任～資料に基づいて報告
- (山下)A 判定が急激に増えた。
- (関) サンタイムの内容を平成 28 年度から改善して取り組んできた。
- (伊藤)けがの発生について(P24)国との比較は？
- (玉井)授業参観をしていて、最近、子供の姿勢がよくなってきている。登下校時、ポケットに手を入れて歩いている。転んで顔から落ちたら大変なので、家庭への呼びかけをしてほしい。
- (伊坂)いじめのアンケートについて、アンケートをしたことによって確認できたのか。それとも以前から気づいていたことについてもカウントしたのか。
- (関) この結果はアンケートのみ。

(伊坂)そもそも担任は(いじめを)わかっていたのか。それともこのアンケートによってはじめてわかって、対応をしたのか。いじめはあったかもしれないけど(子供が)申告しなかったのか。いじめへの対応は3つのパターンに色分けされている。

## 5 その他

○平成30年度学校運営協議会の開催日について 教頭より連絡

(伊坂)秋津小学校学校運営協議会規則をつくるのか。

(課長)市に則っていればよいが、作成についてはお任せしている。

(小関)第8条(1)についてはあるが、(2)～(4)については報告も承認もないのが現状。このことについては、ご検討いただきたい